ブルペンズ・ニュース

福岡少年野球情報【瓦版】

Let's Play Ball !!

第33号（平成28年6月20日号）

■編集・発行：株式会社ブルペンズ（代表：吉田光寛）
・〒818-0139 福岡県太宰府市宰都 1-13-11
・Tel：092-577-9163 ・Fax：092-775-2284
■発行日：毎月第１・第３月曜日（西日本新聞の朝刊）
■発行部数：33,700 部
■発行地域：福岡市（中央区・博多区・西区）、宇美、大野城、小郡、大牟田

会社ＨＰ

☆当紙面は折り込み以外にも・・・ブルペンズ・ショップ（http://store.shopping.yahoo.co.jp/bullpens-shop/）でご購入頂けます。

夢を叶えるために、毎日『ジャッジ』～高校生審判・山原佑太さん～

今号より新しくスタートする、『注目の野球人』コーナー！今も昔も、「野球の普及」や「野球を通しての交流・教育」に熱い思いを抱き、様々な活動を懸命に取り組まれている方々が各地にたくさんいらっしゃいます。ブルペンズ・ニュース～福岡少年野球情報【瓦版】～では、少年野球の大会結果やイベント情報だけでなく、そういった『注目の野球人』の皆さんもご紹介していきます。記念すべき第一回目の野球人は、現役高校生の審判員・山原佑太さん（１７）。中学生の時に決められた、ご自身の将来の夢に向かって着実に進んでおられる山原さんの思いや現在の活動をお聞きしました。（聞き手＝株式会社ブルペンズ・吉田）。

注目の野球人

―まず、山原さんの球歴を教えて下さい。

「最初は、小学１年生から地域のソフトボールチームに入りました。３年生になると軟式少年野球チームに、６年生ではソフトボールのクラブチームに入りました。友泉中学校では、野球部に入部しました。」

―ポジションはどこを守っていましたか。

「小学生の時はセカンドやショートなど主に内野を守り、中学生になるとピッチャーをしていました。」

―小学生・中学生の時はプレーヤーだったということですが、審判を目指すようになったのはいつぐらいですか。

「中学１年生の後半です。練習試合がある時、１年生は試合の準備や運営、審判などを行います。その審判をしていくにつれて、『審判って面白いな』と感じるようになり、将来、審判としてグラウンドに立ちたいと思いました。」

―『審判になる』という目標を中学生の時に立てた山原さん。その目標を達成されるために、どういった活動をされましたか。

「まず、インターネットで情報を収集することから始めました。その中で、年齢制限が無い四国の審判団体を見つけ、連絡をしました。その後、私が福岡県に住んでいるので、久留米市に事務所がある全日本軟式野球福岡県連盟に連絡を入れて頂き、それから全軟福岡市支部に繋げて頂きました。そして、高校生になる直前の３月３１日に福岡市支部のミーティングがあり、そこで入会届を提出しました。」

―中学校での野球部を引退した後はどういった活動をされていましたか。

「友泉中学校で勉強をさせてもらいました。ブルペンで球審を買って出たり、練習試合の審判を務めたりしていました。様々な経験の場に立たせて頂いた友泉中学校の」

―高校では、野球部に入部しようとは思われませんでしたか。

「長く審判をしたいと思っていましたので、高校生のうちから審判になるつもりでした。」

―全軟福岡市支部の新しい審判として、研修等もあったかと思います。

「はい、毎月のミーティングで様々な勉強をさせて頂きました。」

―審判としてのデビュー日はいつでしたか。

「高校１年生の７月６日でした。雁の巣レクリエーションセンター内のグラウンドで行われた学童（小学生）の試合で、三塁の塁審として初めて立ちました。」

―緊張はされましたか。

「はい、とても緊張しました。ですが、試合は二回表に降雨ノーゲームとなり、ジャッジもコールも何もすることなく試合は終わってしまいました。」

―初めて球審をされたのはいつですか。

「最初の試合から２週間後の７月２１日、同じく学童の試合でした。先輩の審判の皆さんからは『失敗してもいいから、がんばって！』と声を掛けられました。また、通常は二審制ですが、この日は四審制でサポートをして頂きました。試合は無事に終わり、ほっとしました。」

―先輩の皆さんのサポートは心強いですね。

「はい、先輩の審判の皆さんからは優しく丁寧に、色々と教えて頂いています。ですので、何か分からないことなどがあると、すぐに質問をするようにしています。」

―球審・塁審・線審の中で、立ちたいポジションはありますか。

「やはり、球審をしたいと思っています。球審がジャッジするストライク・ボールで試合が変わるという、大きな役割があるからです。今は自分から球審をしたいと希望を出しています。」

―学童の試合以外、大人の試合でも審判をされていますよね。

「はい、高校１年生の８月からは社会人野球（Ｂ級）の試合も立たせて頂きましたが、最初の頃は学童の試合とは全然違うスピードに驚きました。」

―審判をされていて、大変なことは何ですか。

「やはり、雨の日の試合での審判です。ボール交換も多く、どうしても時間が掛かってしまいます。」

―これまでの試合で、特に印象的な試合はありますか。

「高校１年生の３月に球審をさせて頂いた、九州三菱自動車さんと九州国際大学さんのオープン戦が特に思い出に残っている試合です。投球も打球も、とにかくスピードがとても速くて伸びがあり、選手の動きも大変機敏でした。打球が何度も体に当たりましたが、審判として面白かった試合でした」

―目標とされている審判の方はいらっしゃいますか。

「日本プロ野球（＝ＮＰＢ）の審判である、木内九二生（きうちくにお）さんです。日本シリーズやオールスターでも審判をされたベテランの方で、その姿勢やコールなどを参考にさせて頂いています。」

―日頃、審判として注意されていることは何ですか。

「姿勢です。球審であれば、投球前にはキャッチャーの頭の上に自分の顔を置くことや顎を下げないことなどです。また、どういった試合でも同じ気持ちで、一球一球を真剣に審判することも大切にしています。そして、今後は試合の流れを読むことやその流れに最適なジャッジを行うことも、より出来るようになっていきたいと思っています。」

―中学生の時に『審判になりたい』と思われ、高校生になって数々の試合で審判をされてこられた山原さんの今の夢は何ですか。

「ＮＰＢの審判になることです。日本シリーズやオールスターでも審判をしたいと思っています。」

―その夢を叶えるために、実際に審判をすること以外にされていることはありますか。

「Ｙｏｕ Ｔｕｂｅなどで様々な試合を見て、その中の審判の構えや動きをチェックし、勉強しています。また、平日は学校が終わった後に出身校の友泉中学校に行き、ブルペンに立たせてもらうなどの練習をさせて頂いています。」

―審判の世界に希望されることはありますか。

「やはり、もっと審判をされる方が増えていけばいいなと思います。そうすれば一人ひとりの負担が減り、より様々な事も出来るからです。」

―それでは最後に、野球をガンバっている子どもたちにメッセージをお願いします。

「はい。子どもたちには少年野球らしく、全力で、フェアプレーで野球をガンバって、そして、野球を楽しんでほしいです。」

―本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。ＮＰＢの審判になるという夢を叶えられて下さい。応援しています！

「はい、自分で決めた夢を叶えられるようにガンバります！こちらこそ、ありがとうございました。」

「先輩の審判の皆さんからは、色々と教えて頂いています。」と話せる程、周囲のサポートは充実している。

爽やかで誠実にインタビューに答えて頂いた山原さん。グラウンド上では厳格な判定を下されていますが、その素顔は好感が持てる、好青年の高校生です。

『注目の野球人』コーナーでは、皆さんがご存知の野球に携わる様々な方をご紹介したいと思っております。「この方を取り上げてほしい！」「あの方の特集を組んでほしい！」というご希望があれば、お気軽にご連絡下さい。

※ご連絡先＝株式会社ブルペンズ・吉田（携帯０９０－４４８８－１３７６）

≪少年野球情報（チーム紹介や大会結果など）や掲載広告を募集中！！≫ お申し込みは、株式会社ブルペンズ（担当：吉田）まで ℡：092-577-9163